

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°53 フランク・マサール 生産地方：プリオラート（スペイン）

新着ワイン3種類♪

DO テラ・アルタ エル・マゴ 2013 (赤)

通常エル・マゴは100%グルナッシュだが、2013年はグルナッシュが花流れに遭い、当初の予定していた収量に満たさなかったため、5%だけシラーがブレンドされ、例年よりフレッシュかつミネラリーで、味わいが洗練されている！また、実質アルコール度数は14%近くあるが、口当たりがとても滑らか。スイスイ飲めてしまうので、飲みすぎにご注意♪

DO リベイラ・サクラ リシス 2011 (赤)

リシスの品種メンシアはブルゴーニュのピノのようなエレガントさを持つが、フランク曰く、2011年は彼が今まで仕込んだリシスの中で一番肉厚で力強いワインが出来上がったとのこと。それでもコート・ド・ニュイのような魅力的な果実味としなやかなタンニンは健在。ワインの酒質が強いので今回は一部新樽熟成を行っている！

DOQ プリオラート ユミリタ 2012 (赤)

2012年のユミリタは、ワインの質量ともに当たり年！フランク曰く、例年よりも降雨量があり、夏が比較的涼しかったおかげで、力強さの中にフィネスを兼ね備えた上品に洗練されたワインが出来上がったとのこと。今年も彼のトップキュヴェ「ウェリヤス」が30%ブレンドされている！香りを開かせるためにカラフをおススメ♪

いいね！再入荷2種類♪

DOQ プリオラート赤 ウェリヤス 2012 (赤)

2012年はブドウの粒が例年よりも小さく、長熟タイプでしっかりと凝縮したタンニンとストラクチャーがありながらも、Poboleda（ポボレダ）特有の清涼感のある洗練された上品な果実味があり、早くから十分楽しめるワインに仕上がっているとのこと！開けたては香りが閉じ気味なのでカラフがおススメ！

DO モンサン フィンカ・エル・ロメロ (赤) 2011

ワイン名が「ローズマリーの農園」と言うだけあって、ワインの香りにローズマリーやタイムなどのハーブの香りがある。カリニャンは一般的に野暮ったく癖のあるワインになりやすい難しい品種だが、でも、このフィンカ・エル・ロメロにはどこか品があり、フランクのセンスの良さが窺える！

ミレジム情報 当主フランク・マサールのコメント

リシスの畑がある2011年のリベイラ・サクラは、ブドウの開花が早く、収穫が比較的早かった年だった。スペインの中では降水量の多いリベイラ・サクラには珍しく、春から夏にかけて乾燥した暑い日が続き、ブドウが水不足のため干上がってしまったものも一部あった。収穫は例年よりも2週間早く、ブドウも粒が小さく中身が凝縮していた！

2012年は、2009年に次ぐ当たり年！プリオラートでは珍しく3月、4月に計150mmとまとまった雨が降ったおかげで、5月の開花は水不足の心配がなくとても順調だった。その後も、日照量を確保しつつ比較的涼しい天候に恵まれた。2012年は、特にプリオラートの中でも標高400mと最も高い位置にあるので、7月8月と35℃を越す猛暑が何度かあったが、総じて30℃を超える日が少なく、さらに夏の間でも常に朝夕の寒暖の差があり、ブドウは糖と酸味のメリハリの利いた素晴らしいものを取り入れることができた！

エル・マゴの畑がある、2013年のテラ・アルタは、年の前半の気温が上がらず雨の多い日が続いた。開花時期の5月も気温が低かったため、開花に敏感なグルナッシュが一部花流れに遭い、収量が予定よりも40%減。7月中旬から猛暑により気温が一時40℃近くまで上がる日もあったが、春の間降り続いた雨が地中にリザーブされていたことと、エル・マゴの畑が比較的標高のある場所にあるおかげで、ブドウが焼けることはなかった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

前回に少し触れたが、フランクはあと5年を目途について念願のドメーヌを持つ予定だ！彼自身は、2004年から自身のワインをつくり続けているが、元々ワイン界に人脈の広い彼は、一方でワインコンサルタントやクルティエの顔があり、最近まではヴィニョロンというよりもそちらの方面での活躍が目立っていた。そんな世界中をまたに奔走していた彼も、40半ばに差し掛かる時点で、これからの将来を考え、再び自身の原点であるヴィニョロンに戻ろうという考えに至ったようだ。新しいドメーヌの拠点は、現在借りているポボレダの畑の所有者 Mas Sinen のカーヴを引き継ぐ予定。ちなみに、カーヴは半径3 km以内に隣接する畑や民家もなく完全に孤立していて、そこを中心にすり鉢状にポボレダ(プリオラート)の畑が広がる理想の場所にある！地中に半分埋まった酒蔵は、真夏でも気温が涼しく、ワインをゆっくり熟成させるには最高の条件が整っている！「現在も、ワインをつくって高い評価を受けてはいるが、今までは正式なドメーヌがなかったため、どうしてもどこかで全て借り物というイメージがあり、自分の居場所が不安定だった。でも、これからはドメーヌとして自らのアイデンティティーがはっきりする！これだけでも、ドメーヌを持つ意義があり、精神的に大きな自信と安心につながる！」というフランク。

近年は、SO₂の含有量を減らしたり、また電気や機械を一切使わない昔ながらのワインにも挑戦するなど、めっきり自然派色の強くなっている彼だが、さらに新しく生まれ変わる2015年は一体どんな顔を見せてくれるのか！？これからも目が離せない～！

(2014.8.7.のドメーヌ突撃訪問より)